



平成28年度 NO. 10

駒岡小学校だより

2月号

優れた物語

副校長 中山 正之

先日、「この世界の片隅に」というアニメ映画を観ました。昨年末から様々なところで話題になっている作品です。観た人は「すごく良い映画だから。」「泣いてしまうよ。」「絶対に観ておくといいよ。」と口々に勧めてくれました。私は観てみたいなどは思いつつも、その一方で戦争の話は今までもたくさんあったし、もう今となっては古いんじゃないかとも思っていました。しかしともかく実際に観てみようと思い、劇場に出かけました。

この物語は太平洋戦争の時代、広島で生まれ育ち結婚して呉という港町で暮らすことになる、すずさんという女性とその周囲の人々の話です。物語の前半では、すずさんの穏やかな生活が淡々と描かれます。しかし戦争が激化してくるにつれ、すずさんの生活も次第に苦しくなっていく、ついには呉の町にも爆撃が開始されます。後半は、人々が常に死の恐怖と隣り合わせの状況を強いられていくようになります。

映画が終わったとき、場内が明るくなくても、観客はなかなか席を立とうともしませんでした。観た人の多くがこの物語に圧倒されたのだと思います。私自身もこの映画が終わってほしくないと思いました。先入観はきれいに覆されていました。そして観る前に言われたことを、他の人たちに同じように伝えたくくなりました。とにかく多くの人に観てほしい映画だと思いました。

聞くところによると、この映画は事前あまり宣伝がなく、公開される劇場の数も少なかったそうです。しかし口コミやSNSでじわじわと評判が広がっていったそうです。また、あらゆる年代の人たちが劇場に来ているとのこと。実際私が行った劇場も様々な年齢層の人たちがいました。おそらく性別や年代によって感じ方はまるで違うはずですが、しかし観た人がそれぞれに心を動かされる部分が、この作品にはあるのだと思います。さらに、昭和の戦争の時代を描いていますが、決して古い物語ではありませんでした。特に、阪神淡路大震災や東日本大震災などを経験した現代の私たちの感覚に、強く訴えかけ、つながってくる映画です。ただ、暗く重いだけの内容ではありません。映画を観ている間、観客は何度もクスクスと笑い、美しい画面に心を奪われ、不思議な展開に「あれ？」と思わされます。二時間を超える映画ですが、様々な感情が湧き上がるためなのか、その長さを感じることはありませんでした。

私が学生の頃、今では名作と言われ、子ども達にも観せることの多い「火垂るの墓」と「となりのトトロ」は二本立てで公開されました。私見ですが、「この世界の片隅に」はこの二本を一本にしたような映画だと感じました。優れた物語は人々に様々な見方を与え、多くの事柄を考えさせてくれます。このお話もその一つだと思います。

* 離任式について

今年度より鶴見区の全小学校で、教職員の離任式を年度内に行うことになりました。3月24日(金)の修了式の日に行う予定です。ご承知おきください。

* 29年度の宿泊行事について

来年度の宿泊行事の日程が決まりました。ご確認をお願いいたします

- 4年愛川体験学習：5月30日(火)～31日(水)
- 5年赤城体験学習：6月21日(水)～23日(金)
- 6年日光体験学習：5月18日(木)～19日(金)